

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条1 2丁目
開設時期	【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。 【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。		
事業概要	【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。 【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。		
主要施設	【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等 【札幌彫刻美術館】 本館:ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館:展示室1～4、ロビー		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を活かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。 彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。		
指定単位	施設数:2施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:施設の設定目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数:2施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。		

II 令和2年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とするため、次の5つの基本方針を策定している。</p> <p>①札幌芸術の森の特性を活かした魅力ある多彩な事業の実施 ②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり ③自然と調和した事業展開と場づくり ④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実 ⑤安全で利用しやすい施設づくり</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、次の4つの基本方針を策定している。</p> <p>①本郷新の顕彰及び関連情報の収集・保存・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、利用者に向けた施設利用のしおりに作成する方針を固め、作成している。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。</p>	<p>第4期指定管理期間において、札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を図っており、サービスの向上に努めている。また、様々な節電等対策や環境に配慮した取組を行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

夏場28℃、冬場24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。クールビズを促進した。

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間に照明を必要最低限に間引いたり、不在時の消灯を徹底する等、更なる節電に努めた。
- ・従来より実施している、野外美術館シンボル彫刻の前の人工滝揚水ポンプの週末限定運転を引き続き実施するなど、消費電力の削減を図った。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に自家発電を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。
- ・美術館展示室のスポットライトのLED化を進めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を抑え、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

- ▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。
- ▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理人として芸術の森事業部管理課長を配置している。
- ▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員6人を配置している。
- ▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

《4月》

新規採用職員研修
個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

《11月》

パソコン研修

《12～1月》

コンプライアンス研修(情報セキュリティ研修)
新規採用職員研修 接遇研修(ビジネスマナー)
管理職マネジメント研修
※12～1月の期間内でオンライン受講

省エネについては人工滝揚水ポンプの週末限定運転や照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に務めた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。</p> <p>▼ 学芸員の資格を有する職員3人を配置している。</p> <p>▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行うほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。</p> <p>《4月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「本郷新のレガシー【五輪大橋と花束】」展 <p>《6月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「わくわく★アートスクール2020作品展」 ・ハロー！ミュージアム協力員研修 <p>《7月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「舟越桂展」 <p>《8月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「本郷新の彫刻と平和」講話 ・ハロー！ミュージアム協力員研修 <p>《9月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「なぜ彫刻は破壊されるのか」講話 <p>《10月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「本郷新・全部展①②」 ・現場研修「創造的協働」講話 ・現場研修 防災・救急処置 <p>《12月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「札幌ミュージアム・アート・フェア2020-21」 <p>《1月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハロー！ミュージアム協力員研修 ・コンプライアンス研修(情報セキュリティ研修) ・管理職マネジメント研修 <p>《3月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場研修「「芸術」の陰謀」講話 	<p>配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現場研修も必要の都度実施した。美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、事業部内及び財団全体の職員間の情報共有を行った。</p> <p>▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間で、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。</p> <p>▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定などお客様対応に必要な情報共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。</p>	<p>事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。</p> <p>事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。</p>
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。</p> <p>▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、一部の経費節減等が期待できる業務については、複数年契約を締結した。</p> <p>▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。</p>	<p>規程類に基づき、適切な契約を行った。</p> <p>規程類に基づき、適切な契約を行った。</p>

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

▼札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 6月29日 (書面開催)	・令和元年度管理運営業務報告について(施設利用状況、主催事業) ・令和2年度管理運営業務報告の経過報告について(施設利用状況、主催事業) ・新型コロナウイルス感染症に伴う休園状況と事業の中止について
第2回 10月21日	・令和2年度管理運営業務報告の経過報告について(施設利用状況、主催事業) ・札幌芸術の森駐車場利用料金について
第3回 1月7日 (書面開催)	・令和2年度管理運営業務報告の経過報告について(施設利用状況、主催事業)
第4回 3月10日	・令和2年度管理運営業務報告の経過報告について(施設利用状況、主催事業) ・令和3年度事業計画について ・札幌芸術の森駐車場利用料金について
<協議会メンバー> ・地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長 ・利用者：施設利用者 ・有識者：放送局、新聞社、旅行会社、大学教授、広告代理店 ・ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア ・札幌市：市民文化局文化部長 ・指定管理者：芸術の森事業部長	

▼政策推進連絡会の開催

開催日

令和3年1月20日(水)14時00分～16時00分

意見交換等の項目

- ・令和2年度決算見込みと事業実施状況
- ・令和3年度予算、事業計画

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 6月12日 (書面開催)	・新型コロナウイルス感染症の影響と対応 ・令和2年度事業計画
第2回 9月11日	・令和2年度第1回理事会報告 ・令和2年度事業中間報告 ・新型コロナウイルス感染症の影響と対応
第3回 12月4日	・令和2年度事業経過報告 ・令和3年度事業の企画状況
第4回 3月12日	・令和2年度事業報告 ・入館者アンケート集計 ・令和3年度主催事業

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたり、様々な分野の方々からご意見をいただいた。令和2年度は駐車場利用料金について議題にし、委員の幅広い見地から意見を募ることで、より良い運営方法について検討が進んだ。

当施設の運営について、多岐にわたり様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者、専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に活かした。

<協議会メンバー>

- ・地域：宮の森まちづくりセンター所長
- ・利用者団体：札幌市立大倉山小学校PTA副会長
- ・地元自治会：宮の森明和会会長
- ・学識経験者：札幌市立三角山小学校長
- ・財団評議員：彫刻家
- ・札幌市：市民文化局文化部文化振興課長
- ・指定管理者：彫刻美術館館長(芸術の森事業部彫刻美術館課長)

▼政策推進連絡会の開催

開催日

令和2年12月4日(金)午前10時～11時30分

意見交換等の項目

- ・指定管理者評価シート
- ・札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019掲載事業
- ・野外彫刻作品保全推進費

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。

資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。

▽ 要望・苦情対応

【札幌芸術の森】

▼ お客様からの要望・苦情については、速やかに担当課及び関連部署の職員間で、文書や財団内LANによるグループウェアソフト等で情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。

▼ 札幌芸術の森ホームページから送信される問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。

来園者からの要望に対しては、真摯に受け止め、可能なものは迅速に改善するよう努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。

▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。

来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理業務に関する諸規程 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する書類 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。</p> <p>▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。</p>	<p>業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。</p> <p>施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。</p> <p>施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。</p>									
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の相談を含めて個別相談にも応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応としての専用相談窓口を設けている。</p>	<p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。</p> <p>また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ1)として認証を受けているほか、6年計画で策定した一般事業主行動計画を現在遂行中である。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td style="background-color: yellow;">C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">札幌芸術の森において、労働基準監督署による調査により、一部労働安全衛生法の違反が判明し、是正勧告を受けたことから、安全衛生管理体制の充実を図るとともに業務効率化や業務分担の見直しなど、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	札幌芸術の森において、労働基準監督署による調査により、一部労働安全衛生法の違反が判明し、是正勧告を受けたことから、安全衛生管理体制の充実を図るとともに業務効率化や業務分担の見直しなど、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。			
A	B	C	D								
札幌芸術の森において、労働基準監督署による調査により、一部労働安全衛生法の違反が判明し、是正勧告を受けたことから、安全衛生管理体制の充実を図るとともに業務効率化や業務分担の見直しなど、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。											

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行っている。また、週に1回の施設担当職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を実施し、施設管理に係る情報共有を行った。 ▼ 園内へのヒグマ進入防止のため、園の外周に電気柵を設置し対策を講じている。電気柵の維持管理については、専門業者による早期の設置と定期点検を行うほか、職員による目視点検を日常的に行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。市内熊出没情報を注視し、周辺で熊の出没があった場合は、警備巡回の頻度を増やし来園者が安心して利用できる環境の確保に努めた。 ▼ 冬季は、除雪業者と連携をはかり、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないように、また安全の確保に努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。 ▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間でタイムリーに共有している。 ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。 ▼ 令和3年3月20日に工芸館で小火災が発生した。マニュアルに基づく対応で初期消火により鎮火した。原因究明等、消防署に協力するとともに、再発防止のため、施設・設備の維持について、職員、常駐業者に対し確認を行った。 <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。 ▼ 建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。また、手すりを2か所新設した。 ▼ 石膏原型3点に対して、転倒防止のため、壁面に固定する措置を行った。 ▼ 平成30年度に転倒し屋外に置いてあったコンクリート作品を屋内に移動し保管するとともに、同作品の石膏原型から鑄造したブロンズ作品を屋外に設置した。 ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。 <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p>	<p>利用者の快適性、安全性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。園内において利用者、職員、委託業者等が被害者となる事故が発生することがないように、注意喚起を講じながら業務にあたっている。</p> <p>野外彫刻作品、及び大型の石膏原型作品等の防災・保全方法の研究を進め、今後、状況に応じた対策に努めていく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>両施設とも、施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p> <p>札幌芸術の森においては、施設内で小火が発生したことから、事故の再発防止と安全確保の徹底を図りたい。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

【札幌芸術の森】

▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる業務、電気・空調設備等の建物保守関係の業務、野外ステージや美術館に関わる管理業務等業務、合計42業務について第三者委託により実施した。

▼ 主な修繕について

- ①アトリエA・B、多目的アトリエ、ロτζ修繕工事
- ②ロτζ屋根板金塗装改修工事
- ③野外美術館《雲の牧場》埋設配管漏水修理
- ④アートホール大練習室幕縫製修繕

▼ 野外美術館の作品はその設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。日常的な点検は目視などの方法によるが、安全管理上特に注意している一部作品について、専門の業者による調査を行った。

仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。

状況に応じた適切な修繕を実施することができた。

令和2年度は特に臨時休館や利用者のない期間を利用し、アトリエ等貸施設の経年劣化箇所の補修など、普段行うことのできない修繕を積極的に行った。

野外美術館の多くの作品が設置から約30年以上経過しているため、外観からの日常点検では把握することができない内側の劣化も予想される。今後必要な対策のために、保全方法の研究を進めている。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。

▼ 主に下記の修繕を行った。

- ・本館・記念館網戸設置工事
- ・本館冷温水往還パイプ断熱材補修
- ・記念館換気設備設置
- ・本館入口ドア修繕
- ・本館・記念館監視カメラ設置
- ・本館手すり増設

▽ 防災

【札幌芸術の森】

▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。

- ・第1回消防訓練(机上) 11/27
- ・第2回消防訓練(総合) 3/10

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。

- ・地震発生時を想定した消防訓練(10/22)

仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。

状況に応じた適切な修繕を実施することができた。

職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。

職員の防災への意識を高めることができた。

(4)事業の計画・実施業務	【札幌芸術の森】		A B C D
	<p>▼音楽・舞台芸術事業</p> <p>芸術文化の発信事業として展開してきた「サッポロ・シティ・ジャズ(自主事業)」や、ユース世代の交流による新たな音楽の創造を目指す新規事業「ユースジャムセッション」、21年目となる札幌ジュニアジャズスクール事業を通年で開催した。</p> <p>▼サッポロ・シティ・ジャズ 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催14回目を迎えた。 会期は夏から秋にかけ開催し、夏は、パークジャズライブと同コンテストをウェブ配信に変更。パークジャズライブには約100組が参加し、コンテストは無観客ライブを収録し配信した。 秋は、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、札幌文化芸術劇場hitaruを会場に、舞台上にステージと客席を設け、食事とライブを楽しめる「シアタージャズライブ」を開催したほか、札幌市民交流プラザ内のSCARTSコート・クリエイティブスタジオを利用した普及コンサートや、札幌市図書・情報館と共催したライブラリー企画などの事業を展開した。 ライブの実施のほか、「デイトタイム親子ジャズ」や「ユニバーサルジャズライブ」では来場できない方のために動画を収録し、配信もあわせて行った。 また企業・団体との提携では時計台ライブなど新たなタイアップ事業も実施した。 なお、海外プロモーションとして、予定していた前年度のパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣は中止し、次年度以降に見送った。</p> <p>▼札幌ジュニアジャズスクール 6月から毎週末の定期練習を実施。定期演奏会とファイナルライブのほか、芸術の森園内でのミニコンサートやユースジャムセッションでの活動を通年で行った。 また、ジュニアジャズ活動の振興を目的としたジャズの種プロジェクトは、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、交流ワークショップを芸術の森で行ったほか、中止となったよういで「ともだちコンサート」の代替企画として各スクールが出演する動画を制作し、ウェブ上での共演を行った。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ライブが困難な事業では新たにウェブでの動画配信を取り入れ、パークジャズライブ・同コンテストでは閲覧数が66,000件を超えるなど、多くの方に参加・楽しんでいただくことができた。また、ライブの実施にあたっては、来場者・出演者・スタッフの安全を第一に、客席数の間引き・消毒作業・受付方法等の見直し等の感染症対策を徹底して実施した。結果、一人の感染者を出すことなく、来場者の満足度87%を得ることができ、来場者・出演者からもコロナ禍における開催に対して、評価と感謝の声が多く寄せられ、音楽によるまちづくりに貢献できた。</p> <p>札幌ジュニアジャズスクールでは、4月から定期練習を開始した6月までの間を活用し、講師や経験者によるホームワーク動画を制作しウェブ配信することで、受講生のスキルの向上やモチベーションの維持に努めた。 また、コロナ禍における演奏機会の創出として、感染症対策を徹底し、定期演奏会やファイナルライブのほか、札幌芸術の森園内でのミニコンサートを開催するなど工夫し、来場者からも評価いただいた。道内各地域のスクール生とも動画制作を通して交流を継続するなど、年間を通じて次世代の文化芸術の担い手の育成に寄与することができ</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の事業は中止や開催制限となったが、両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。</p> <p>サッポロ・シティ・ジャズでは、積極的にオンライン配信等を活用し各種事業を実施したほか、札幌市民交流プラザを活用したコンサートや地元との団体、企業とのタイアップ事業等を開催し、ジャズの裾野拡大に努めた。</p> <p>札幌ジュニアジャズスクールでは、芸術の森園内での演奏会や道内ジャズスクール生との動画制作を通して交流等、次代を担う子どもたちに、発表や交流活動の機会を提供した。</p> <p>彫刻美術館では、収蔵作品を活用した展示会等、多彩な事業を展開しており、彫刻芸術の情報発信に努めた。また、オンライン配信を取り入れて事業を実施している点は高く評価できる。</p> <p>以上により、本市の要求水準を上回っている。</p>

▼バレエセミナー

開催32回目となるセミナーを実施する予定であったが、国外講師の招聘が困難となったことを受け中止とした。

受講申込者に対し、公式ホームページ上で講師陣からのメッセージや自宅でもできるレッスン動画を掲載した。

▼ユースジャムセッション

道内外からユース世代のバンドが集い、セッションで交流を深めながら新たなサウンドを創造する3か年プロジェクトの1年目。新型コロナウイルス感染拡大のため、内容を札幌ジュニアジャズスクール中学生クラスと地元のプロ・社会人ビッグバンドとの交流ワークショップと試演会に変更して開催。

また、サッポロ・シティ・ジャズのアートディレクターを講師に招き、JAZZの文字をテーマにしたロゴデザインのワークショップを開催した。

▼ビッグバンドプロジェクト

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンで編成した札幌ジャズアンビシャスの定期練習を通年で実施し、12月には4度目の定期演奏会として弦楽アンサンブルと共演、クラシックをジャズアレンジした曲をプログラムとして開催した。

活動のプロモーションを兼ね、砂川市で現地のジャズスクールとのワークショップとライブを開催したほか、ジャズの種プロジェクトの道内ジャズスクールとのリモートセッションの動画を制作しウェブ公開するなどの活動を行った。

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数 : 7本

総入館者数 : 177,066人

(自主事業「札幌美術展 アフターダーク」を含む。)

①「みんなのミュシャー線の魔術ー」

ミュシャの作品の中核を成す特徴的な線で描かれた作品群と、その影響を受けた欧米や日本のアーティストの作品を紹介し、ミュシャの線の魅力に迫った。

メッセージやレッスン動画の配信により、申込者やホームページの閲覧者がバレエへのモチベーションを持てるよう努めた。

当初予定より実施規模は縮小したが、世代を超えたジャズセッションによる音楽の創造を行った。

また、デザインワークショップの導入など、音楽とともにアート表現にも取り組むことができた。

定期演奏会では、弦楽アンサンブルと共演し、新たな音楽・舞台芸術の創造を行った。

また、これまで築いてきた地方都市のジャズスクールとの関係性を生かした活動を展開した。

単に人気作品を展示するばかりでなく、作風に影響を与えた工芸品なども展示することにより、ミュシャがどのように曲線美を描くようになったかについて、また、ミュシャに影響を受けた世界各国のアーティストを紹介し、作家が受けた影響、与えた影響の双方について、広がりを持って展覧することができた。

②「蜷川実花展 -虚構と現実の間に-」

写真家の枠を超え、映画、デザイン、ファッションなど多彩な活動をしている蜷川実花。本展では、「虚構と現実」をテーマにアーティストの写真の本質に迫った。色鮮やかな花々を撮影した《永遠の花》や《桜》をはじめ、著名人やスポーツ選手を撮影した《Portraits of the Time》、新境地となった《うつくしい日々》など、多様な方向から制作された作品が一堂に会した。表現のジャンルを限定することなく時代の先端を鮮烈に示し続ける“蜷川実花”の作品世界を全身で体感できる機会となった。

当初4月25日から開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が解除された6月1日からの開催となった。また、開催予定だったPIXARのひみつ展(7/18~8/25)は今年度の開催が不可能となったため、関係者と調整のうえ、会期を延長して開催した。会期延長、感染症対策の取り組み、一部作品を撮影でき、観覧者には喜ばれた。渡り廊下に展示した作品が、展示室へのアプローチで期待感を盛り上げる効果を出し、評価が高かった。

③「ムーミン展 THE ART AND THE STORY」

ムーミンの原点である小説9冊の挿絵原画を中心に、多彩に展開するムーミンの世界に浸ることができる展覧会。小説・絵本の代表的な場面を原画で紹介したほか、新聞広告やグッズ、フィギュア、また舞台に至るまで、トーベ・ヤンソンの広範な制作活動をムーミンとなくまたちの魅力あふれる作品を通して紹介した。

20歳代から50歳代まで幅広い年齢層が来館した。普段美術館に足を運ばない客層の来館が多く見られ、新型コロナウイルス感染拡大の中での開催は心とむとの声が多く寄せられた。歴代9位となる63,827人の入場者を記録するほどの人気ぶりだった。

④「札幌ミュージアム・アートフェア2020-2021」

札幌国際芸術祭2020の開催中止により生じた空白期間に、新たな試みとして開催した。

新型コロナウイルスの影響により、美術界においても多くの展覧会やアートフェアなどの祭典が延期、中止、内容の変更といった影響を受けている。ギャラリーなどでの展示も例外ではなく、そのため発表機会とともに販売の機会を失った美術家も少なくない。本企画はそうした地域の美術家に対するコロナ禍での支援、ならびに地域のアートマーケットの活性化を目的とし、札幌を中心に活動するギャラリーが取り扱う北海道の美術家の作品を展示販売したものの。

美術家にとっての発表と作品を販売する機会の一助にとどまらず、一般市民や美術愛好家、また美術関係者などにも広く今日の北海道美術を俯瞰することのできる好機となった。出展ギャラリーからは、「多くの人にギャラリーの存在を知ってもらい機会になった」との感想が聞かれたほか、美術館の新たな取り組みとして多方面から注目を集めた。

<p>⑤「札幌芸術の森美術館コレクション選 北海憧憬」 蛭川実花展開催時、B展示室は当初蛭川実花展の作品を一部展示する予定だったが、密集を避けるため本展示を取りやめ、急遽コレクションを紹介する場とした。 新型コロナウイルス感染拡大で外出・旅行を控えなければならぬ環境下、心が和む旅情あふれる北海道の風景を描いた作品を選定。 B展示室でのコレクション展は、本来は入場無料で自由に鑑賞できるようにしているが、人数制限をする観点から、蛭川実花展のチケットを持っている方みの鑑賞とした。</p>	<p>札幌市民の財産でもある当館のコレクションは、1,723点を数えており、今後も積極的に紹介する機会を創出していきたい。</p>
<p>⑥開館30周年記念 展覧会ポスターで振り返る札幌芸術の森美術館 1990年9月29日に開館した当館の開館30周年を記念し、過去に当館で開催した展覧会のポスターを展示する。開館記念展の「生誕150年ロダン展」から本園の「ムーミン展」に至るまで、178本の歴代展覧会のなかから厳選した50展覧会のポスターと、当時の思い出を振り返る担当学芸員のコメントをあわせて展示した。</p>	<p>30年の歴史を振り返る機会となり、当時は懐かしむ声も多く聞かれた。</p>
<p>⑦「札幌美術展 アフターダーク」(札幌市補助事業) 後述</p>	
<p>▼野外美術館 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オープンが例年よりも遅れて5月26日からとなった。入口には消毒液を設け、以前は触れることが可能だった彫刻には手を触れないよう来館者に案内した。 開館中は謎解きイベントを継続的に開催したほか、7月23日からは自分のスマートフォンで作品解説が視聴できる「ポケット学芸員」の配信がスタートした。 密になりにくいスポットとしてマスコミからも注目を集め、7月以降来館者数は堅調に推移した。特に8月は札幌市の「さあ！まわろうSAPPOROキャンペーン」の一環で無料開放となり、当月の来館者が2万人を超えた。 10月1日からは園内でSapporoCityWi-Fiの運用が始まり、ポケット学芸員の利便性も向上した。 来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア29名により、作品解説を行った。 野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、彫刻鑑賞ノートと、子ども向けには、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができるシールマップを制作販売した。</p>	<p>作品解説ボランティアは、ボランティア研修を受け研鑽を積み、定時解説、臨時解説など、来館者の希望に応じた時間や内容で解説を行っている。道内外からの来館者からは、作品をより理解することができたと好評を得た。より質の高い解説を今後も目指していく。感染リスクの低い屋外の施設であることから、積極的に事業の企画・広報を行った。毎年開催を楽しみに待つ一定の固定客を得ている謎解きイベントでは、密集や道具の共有を避けるためにスマートフォンとLINEアプリを利用した新企画を実施し、好評をいただいた。</p>

▼教育普及に関する事業

佐藤忠良記念子どもアトリエでは、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした当館所蔵品を展示するとともに、ワークショップの企画・実施をした。

[佐藤忠良子どもアトリエ]

ワークショップ企画数:2本(「ちびっこ油絵」とこれまで通年実施していた「ねんどで彫刻」の材料を持ち帰り用とした、「ねんどで彫刻テイクアウト」も実施)

総参加者数:294人

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、一定時間滞在し、道具を共有するワークショップは中止せざるを得なかった。人数の制限、パーティションなどの飛沫防止、道具の消毒などを行った上で、普段あまり触れることのできない油絵具を用いた子供向けワークショップ「ちびっこ油絵」を実施した。今後も感染対策を施しながら、美術の創作に関わるワークショップを展開していきたい。

▽ 工芸・工房事業

▼ 第20期工芸館常設展示事業

クラフト作家に対する展示機会の提供、使い手側には良質の作品と出会い購入できる場の提供により、クラフト文化の振興を図るため、工芸館に常設展示スペースを設置している。開設から20期目となる今年度は、会期を3期に分け、「彩りの春、芽吹き森」「きらめきの夏、ひかりの森」「ぬくもりの秋、かぞくの森」とテーマを設けて季節ごとに15～20人程度の作家を入れ替えた。作品には作家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対してより親しみを持てる展示となるよう工夫した。今年度の出品家は道内52名、道外2作家の計54名。

芸術の森美術館の展覧会グッズ販売会場を工芸館展示ホール内に併設したことによる相乗効果で、前年度に比べて入場者数と作品の回転販売額が大幅に増えた。会場内では各ジャンルから選りすぐった作品で食卓をイメージしたコーナーを設けるなど、作品が見た目の美しさだけでなく実用性を兼ね備えた、暮らしを豊かに彩るものであることをわかりやすく伝える展示とした。また、PR活動の一環としてSNS上で主な作品を日替わりで紹介、多くのアクセスを得たことで、より多くの方に本展への興味を持っていただけた。

▼ 工芸・版画講習会事業

毎年、陶芸、テキスタイル、木工、七宝、ガラス、金工、版画の各分野の講習会を毎月企画し、初級から上級までの幅広い内容の個人向け講習会を開催し、修学・研修旅行やPTA、企業等のグループ向けの「グループ講習会」、札幌市内の児童会館を対象とした子供向けグループ講習会、クラフト工房来館者が事前の申し込みなしで気軽に作品制作を体験できる「ふらっとクラフト体験」などを実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止または規模を縮小し実施した。

また、新たに、自宅でものづくり体験出来るキット「おうちdeクラフト」を企画、10月より店頭販売。加えて、12月よりオンラインストアを開設し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験出来る機会を創出した。
(令和2年度末時点8種販売中)

講習会総実施回数:8回(前年度実績:300回)
講習会総受講者数:53人(前年度実績:4,835人)
ものづくり制作体験キット販売個数:496個

単に「つくる」という体験で終わらずに、作ったものを暮らしの中で「つかう」ことに重きを置いた内容で講習会を実施し好評を得た。

オンラインストアでは、札幌のほか全国より購入があった。オンラインストアを見た上で来園される方もおり、来園の機会増加にもつながった。また、アウトリーチ事業の中で、札幌ドームで行われた「サッポロモノヴィレッジ」では、オンラインストアで販売しているキットを実際に目で見て触れてから購入する方もいた。その際に、クラフト工房で開催する講習会のサンプルを見て講習会に応募する方もおり、新規受講者の獲得にも繋がった。

▽ その他文化芸術事業

▼ 「芸森アートマーケット」

市民の作品発表・展示の場を提供する事業として継続して実施しており、芸術の森で3回開催した。

市民アーティストが様々なジャンルの手作りアート作品を持ち寄り、発表・展示・販売を行った。

年5回の開催予定のうち、新型コロナウイルス感染拡大により3回の開催に留まったが、開放的な屋外で、市民アーティストに発表・交流の場を設けることができた。

▽ 各種団体との連携による文化芸術の振興

新たな取組みとして、No Maps実行委員会と共催し、「あしたのげいもり」を開催したほか、コロナ禍での新たなコンテンツの発信を試みる事業として「Sapporoアートキャンプ」を観光庁の補助金を得て開催。彫刻のライトアップ・ジャズライブ・花火・天体観測といった様々な内容で実施し、冬の北海道の観光地としての魅力を発信した。

意欲的な試みを実施したい他団体と提携し、芸術の森の施設や事業ノウハウを提供することで、新しい音楽文化の発信を行うことができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

総入館者数17,954人
(本館10,863人、記念館7,091人)

▼ 本館

下記の展覧会を開催した。

●特別展(入館者数)

- ・「わくわく★アートスクール2020作品展ファンタジー×リアリティ」(429人)
- ・「舟越桂展～言葉の森～」(2,578人)
- ・「札幌ミュージアム・アート・フェア2020-21」(1,415人)

- ・「さっぽろ雪像彫刻展2021」(695人)

●コレクション展(入館者数)

- ・「所蔵品展」(141人)
- ・「没後40年記念 本郷新・全部展①」(1,138人)

▼ 記念館

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型、制作道具などの常設展示を行った。平成29年度から2階の一角に本郷新や彫刻芸術に関する図書を自由に閲覧できるコーナーを新たに設けた。

●コレクション展(入館者数)

- ・「東京2020公認プログラム 本郷新のレガシー【五輪大橋と花束】」(5,192人)
- ・「没後40年記念 本郷新・全部展②」(1,645人)

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞(第3回)

- ・二次選考
- ・入選作品展(本館ロビー)
- ・授賞式(市長会議室)
- ・除幕式(大通交流拠点地下広場)

「わくわく★アートスクール2020作品展」では、近隣小学生での美術家による教育プログラムの成果展を予定していたが、コロナ禍により内容を変更し、一般からウェブで募集した写真を使った作品を展示した。「舟越桂展」では、道内美術館蔵の全6点の大型彫刻を中心に展示した。「札幌ミュージアム・アート・フェア2020-21」では、中止になった札幌国際芸術祭の会期で、北海道の美術家の作品を展示、販売した。「さっぽろ雪像彫刻展」では、造形作家による雪像彫刻10基のほかに滑り台を設け、家族連れで賑った。「本郷新・全部展①」では、これまであまり展示することの少なかった平面作品を中心に紹介した。

本郷新が手がけた野外彫刻の石膏原型やブロンズ・木彫などの代表作、制作道具等を常設展示するほか、テーマを設けて所蔵品を紹介した。本郷新や彫刻一般についての図書や、本郷新の蔵書などを紹介する図書・情報コーナーを設け、本郷新や彫刻芸術についての情報を発信することに努めた。

本郷新の功績を記念するとともに、若手作家の育成を願った本郷の遺志を受け、50歳未満の若い彫刻家を対象に、優れた彫刻作品に「本郷新記念札幌彫刻賞」を贈る事業。今年度は受賞作を決定し、授賞式、除幕式を行った。

▽ 彫刻を中心とした美術に関する講座等

▼ 普及事業

●子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」(彫刻美術館コース)【自主事業(札幌市補助金事業)】

参加校数:18校(30回)

参加児童数:958人

●彫美連続講座2020

実施回数:4回

参加者数:224人

●造形教室

・夏休み子ども造形教室

実施回数:2回

参加者数:16人

・冬休み造形教室

参加者数:13人

▼ 学校協力

●三角山小学校の授業協力・児童の作品展

参加児童:39人、入場者:70人

「ハロー！ミュージアム」では、18校(30回)が彫刻美術館における2つのコースに参加し、その活動内容に対して高い評価を得た。特に今年度新設の表現特化型「彫美・表現コース」では子どもたちの自由な発想が粘土を用いて形となって表されていて学校の指導要領にも沿った好事業であった。

連続講座は5年目を迎え、彫刻について様々な面から知ることができる講座として定着してきている。今年度は、新たにオンラインによる配信を試みた。

子ども造形教室では、コロナウイルス感染防止のため離れて制作できる所蔵彫刻をデッサンするものとした。彫刻家から直に、彫刻の見方や形のとらえ方などを教わる貴重な機会となった。

小学校における総合的な学習への協力や作品展への会場提供など学校教育への協力を行った。ただし、通例、行われてきた三角山小学校、大倉山小学校、宮の森小学校による博物館利用、札幌聖心女子学院中等部によるボランティア活動、宮の森中学校、啓明中学校、向陵中学校の職場体験受け入れ、学芸員資格取得希望の大学4年生を対象とした博物館実習(館園実習)の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の感染予防と拡大防止のため回避した。

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

● 美術館めぐり

実施回数:3回

参加者数:36人

● サンクスデー

実施回数:2回

入館者数:195人

● さあ！まわろうSAPPORO～見どころ施設無料化月間(記念館)

参加者数:3,664人

▼ 貸館事業

・いけばな伝統文化宮の森教室発表会

・グループ展「雪のあと・形のさき」

▼ ボランティア活動の受入

ハロー！ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事前の研修を行った。また、図書情報コーナーボランティア、英訳ボランティア、解説ボランティア、スクラップブックボランティアを受け入れた。

▼ 連携事業

● 財団他施設との連携

・札幌芸術の森美術館と会期を合わせ、同時開催で

「札幌ミュージアム・アート・フェア」開催した。

・札幌文化芸術交流センター SCARTSを活用して「彫美連続講座」を4回開催した。

美術館めぐりでは芸術の森管理のバスを利用することで交通の利便性を高め、財団の施設を中心に訪問する、市民の参加しやすい芸術鑑賞ツアーを行った。8月に実施した「見どころ施設無料化月間」では、記念館に多くの人が訪れ、本郷新や当館についての関心を高めることができた。

財団の他施設との連携を図り、財団の総合力を活かす事業を行っている。

(5)施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

【札幌芸術の森】

・施設の利用状況

		R1実績	R2計画	R2実績
アートホールアリーナ	件数(件)	196	230	194
	人数(人)	13,876	19,000	10,715
	稼働率(%)	58.5	65.0	65.2
アートホール練習室	件数(件)	1,768	2,200	1,358
	人数(人)	16,045	21,000	9,387
	稼働率(%)	52.1	57.0	43.8
野外ステージ	件数(件)	39	36	25
	人数(人)	26,419	22,000	2,443
	稼働率(%)	20.9	20.0	16.4
各種研修室	件数(件)	4,423	4800	2,766
	人数(人)	5,761	7,000	3,048
	稼働率(%)	84.6	88.0	71.9
各種窯	件数(件)	411	400	183
	人数(人)	742	600	183
	稼働率(%)	36.1	30.0	37.6
各種アトリエ・ロッジ	件数(件)	378	350	144
	人数(人)	3161	2,600	746
	稼働率(%)	28.3	27	13.6
駐車場	件数(件)	72,706	70,000	60,293

・入場者数

(人)

	R1実績	R2計画	R2実績
総入園者数	607,759	520,000	434,520
芸術の森美術館	247,096	263,000	177,066
芸術の森野外美術館	79,299	78,000	61,246

▽ 不承認 0件、取消し 122件、減免 130件、還付 90件

▽ 利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを8事業開催した。

- ① 野外美術館謎解きイベント「ねんどくんの謎解き大冒険」(10,318人)
- ② 芸森パースデー(333人)
- ③ 0さいからのげいじゅつのもり いっしょにあるこう野外美術館 (31人)
- ④ 芸森秋のスペシャルウィーク (755人)
- ⑤ あしたのげいもり (342人)
- ⑥ 冬空芸術かんじき歩行 (10人)
- ⑦ 野外美術館謎解きラリー ねんどくんのかんじき大冒険 (1,058人)
- ⑧ 芸森フォトコンテスト

コロナ禍における新たな試みとして実施した音楽と映画のイベント「あしたのげいもり」は、広大な敷地を有する札幌芸術の森の特色を活かし、さらにFMラジオを使うことで、密集を防いだ。

入場者数について、令和元年度実績を下回ったが、8月の札幌市実施の「見どころ施設無料化月間」による野外美術館の入館料無料や、美術館のムーミン展や野外美術館の謎解きイベントが好評だったこともあり、大きな減少には繋がらなかった。

A B C D
札幌芸術の森では、野外美術館を活用した謎解きイベントを引き続き実施する等、集客に向けた工夫を行っており、総入園者は前年度を下回ったものの、コロナ禍において大きな減少に繋がらなかった点は高く評価できる。彫刻美術館では、多彩な展覧会事業を開催する等、集客に向けた工夫を行っており、来館者数は前年度を上回り、本市の要求水準9,000人を満たしている点は高く評価できる。以上により、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

令和2年度の園内イベントはコロナ禍における誘客促進イベントとして、様々な感染症対策を講じながらの開催となった。野外美術館謎解きイベント「ねんどくんの謎解き大冒険」では、スマートフォンアプリ「LINE」を使用して、参加者同士の密や共有物を無くすことができた。また、平成30年度から開催し続けている謎解きイベントだが、令和2年度は新シリーズとして、新たなストーリーを展開し、延べ一万人以上の方に参加いただき、好評を博した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

		R1実績	R2計画	R2実績
本館 展示室	展覧会件数	7	6	6
	開館日数	230	256	220
本館 研修室	利用件数	5	16	17
	利用日数	8	27	35
本館 屋外	利用件数	1	1	1
	利用日数	3	3	3
記念館	展覧会件数	1	3	3
	開館日数	288	298	267
貸館	利用件数	2	1	2
	貸館日数	10	2	12
本館入館者数		10,359	9,000	10,863

▽ 不承認 0件、取消し 0件、減免 0件、還付 0件

▽ 利用促進の取組

▼ 年2回「サンクスデー」として無料開館し、コロナ禍でも安心して楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。
実施回数: 2回 入場者数: 195人

新型コロナウイルス感染症の感染予防と拡大防止のため36日間の臨時休館の措置を講じたが、知名度の高い舟越桂の展覧会や本館ロビーで第3回本郷新記念札幌彫刻賞入選作品展を開催することで、昨年度を上回る入館者数となった。また、札幌国際芸術祭の中止によって空いた会期にグループ展を勧誘することで、本館展示室と研修室の利用日数を増やすことができた。

なお、記念館は、8月に無料にしたこともあり、その一か月で3,664人、年間で7,091人と近年では多い入館者数を数えた。なお8月の記念館入館者のうち本館非観覧者、すなわち無料化サービスのみの享受者数は2,912人であった。

サンクスデーや造形教室などのイベントについて地域への広報を積極的に行い、参加を呼びかけた。

			<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。</p> <p>札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信に努めたほか、SNSを活用したタイムリーな情報発信に努めた点は高く評価できる。</p> <p>札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促している。</p> <p>以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。</p> <p>札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信に努めたほか、SNSを活用したタイムリーな情報発信に努めた点は高く評価できる。</p> <p>札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促している。</p> <p>以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p>				<p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p>			
A	B	C	D												
<p>両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。</p> <p>札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信に努めたほか、SNSを活用したタイムリーな情報発信に努めた点は高く評価できる。</p> <p>札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促している。</p> <p>以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p>															
<p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p>															
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 広報の充実 園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれに行われる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。</p> <p>▼ ホームページによる情報発信の充実 平成28年11月に全面リニューアルを実施したホームページの内容をさらに充実させた。また、季節にあわせトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。 サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 R2:2,032,547件 (参考)R1:2,246,517件</p> <p>▼ その他SNSによる情報発信の充実 Twitter、FacebookやInstagramでリアルタイムの情報発信を行った。</p> <p>▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸術の森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。</p> <p>▼ ホームページ編集に携わる職員全員がウェブアクセシビリティ研修を受け、理解を深めた。また、既に公開されている全ページを、ウェブアクセシビリティに対応するよう修正した。 また、ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2021年2月22日にホームページに公開した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 通常のホームページ運営に加え、FacebookやTwitterなどのSNSでのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数:35,902件 (参考)R1:24,934件 Facebookrフォロワー数:1,056件 (参考)R1:846件 Twitterフォロワー数:4,288件 (参考)R1:3,997件 芸術の森の連携により、広報ツール(ニュースリリース)の共有もを行っている。</p> <p>▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2018年8月31日にホームページに公開した。</p> <p>▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAIに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。</p> <p>▼ ホームページ編集に携わる職員はウェブアクセシビリティ研修を受け、その理解を深めた。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>														

2 自主事業その他		A	B	C	D
▽ 自主事業					
<p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 「札幌美術展 アフターダーク」(札幌市補助事業) テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は、文明の発達に伴い人々が常に向き合ってきた「夜」という時間帯に焦点を当てた。 私室で憩う人々や厳しい自然を生きる野生動物たち、覚醒と睡眠、生と死、夜空の星々、歓楽街のネオンなど、夜をめぐるさまざまな営為を主題とし、そのような表現活動を行う北海道および札幌の現代作家11組を選出、夜をめぐる表現の時代性や地域性を探求した。</p> <p>▼ 子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」 市内の小学校5年生児童を対象に、鑑賞活動及び造形活動の楽しさを体験するプログラムを実施。「芸術の森美術館コース」「野外美術館コース」「子どもアトリエコース」「彫美・鑑賞コース」「彫美・表現コース」の5つのコースを設定した。事前学習を担当教師が行う方法とし、学校が主体となって活動する方法としている。担当教師向けに、各コース会場において、活動に関する説明及び事前学習の模擬授業と教材(事前学習キット)の配布を行った。また、鑑賞学習をサポートする協力員(教育サービスボランティア)の養成講座を実施し、今年度は49名が活動した。(新型コロナウイルス感染拡大の影響により、98校が実施中止となった。)</p> <p>コース別参加校数等 ・芸術の森美術館コース:44校46回 ・野外美術館コース:35校35回 ・子どもアトリエコース:10校15回 ・彫美・鑑賞コース:16校25回 ・彫美・表現コース:2校5回 総参加校数:107校126回 総参加児童数:7,409人</p> <p>▼ 連携事業 ①SIAFふむふむルーム 札幌国際芸術祭実行委員会との連携事業。2020年12月に開幕を控えていた札幌国際芸術祭(SIAF)2020の見どころを紹介するスペースとして設置。現代アート、メディアアートの魅力を紹介するパネルや、SIAF2020のテーマ「Of Roots and Clouds:ここで生きようとする」を表現した高さ約6mの特大バナーなどを展示し、SIAF2020をナビゲートした。</p>	<p>本展では「夜」というテーマのもと、絵画・彫刻・写真・版画・イラストレーション・サウンドアート・メディアアート等、多彩な表現手段による作品を紹介した。全国的に知られる作家や作品だけでなく、札幌の美術館として、地域の美術家を市民に紹介していくことは、札幌の文化芸術を振興していく上での大きな意義を持つ。美術家を志す学生から刺激になったという声が多く寄せられたほか、北海道在住作家の表現の多彩さに驚く声も多く寄せられた。今後も鋭意調査・企画を行っていきたい。</p> <p>「対話による鑑賞」や、制作活動を通じて、多くの「気づき」を促し、気づいたこと、感じたことを言葉で表現することで「言語力」を育み、個々の捉え方が違うこと、それを認め合う「多様性」の受容も重点としている。令和2年度より彫刻美術館における「彫美・表現コース」を新設。感染予防のため、各コースの定員を減らし、実施回数を増やすなどの対応を行った。創作を行う子どもアトリエコース、彫美・表現コースでは、児童1人1人と向き合うことができた。感染予防と両立できるより良い活動を模索していく。</p> <p>蜷川実花展に多くの来場者が訪れたため、札幌国際芸術祭に対する周知を行うことができた。本祭は中止となってしまったが、次回の開催に向けて、今後も連携を行っていく。</p>	<p>ビュッフェレストランでは札幌近郊の食材やイベントに合わせた特別メニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは、札幌美術展に出品した作家の作品を展示・販売するなど、地元の魅力をPRする取組が見られた。</p> <p>その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>			

<p>▼ レストラン事業 センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを通年で提供。令和2年度は園内の謎解きイベントや四季のイベントに合わせて特別メニューを提供し、利用者増加に努めた。また、美術館ではカフェ「ラ・フォリア」を営業した。(利用者：8,917人)</p> <p>▼ 売店事業 直営で運営しているミュージアムショップでは、展覧会の大規模な特設ショップとは別に、オリジナルグッズ、展覧会から連想されるグッズなどを独自に取り扱った。ムーミン展の際は、北欧関連グッズを中心に取り揃え、札幌美術展の際は出品作家の作品を取り扱うなどし、好評を得た。 また、園内各所に22台の自動販売機を設置し、広い施設内の複数個所で水分補給ができるようにするとともに熱中症の注意喚起を行うなど、利用者のニーズへの対応に努めた。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 例年同様、令和2年度も各種保守点検、修繕業務など再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業を、近隣の就労支援施設に発注している。</p> <p>▼ 「サッポロ・シティ・ジャズ事業」では、市内企業・団体とタイアップした事業を展開したほか、舞台制作や警備、飲食提供等の業務において、市内を中心に事業展開する企業に発注した。また「パークジャズライブ」のウェブ企画では、ウェブデザインとして観光名所や有名施設を紹介し、札幌の独自性のアピールに努めた。 また、福祉施策としては、身障者でも気軽に来場できるよう、演奏会における身障者価格の設定や「ユニバーサルジャズライブ」での点字パンフレットの制作などの工夫を行った。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。 ▼ 一部清掃、クリーニング業務を市内の福祉施設に発注した。</p>	<p>道産を中心とした食材にこだわったレストランのメニューは、幅広い世代に好評である。また、園内イベントや展覧会との相互的な魅力アップに努めた。</p> <p>ミュージアムショップでは、展覧会観覧者から関連グッズを希望する声が多く、積極的に意見をとり入れ運営を行うことができた。また、作品を取り扱う作家についてもリサーチを行い、幅広く紹介するよう努めた。今後も小規模ながら、楽しくセンスにあふれ来館者を飽きさせない工夫を継続していきたい。</p> <p>また、来園者に不便がないよう、飲食物の自動販売機を適切な箇所に配置するとともに、夏季には熱中症への注意喚起、冬季間は温かい飲み物が提供できるよう、配慮を行った。</p> <p>業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことができた。</p> <p>市内企業の活用については、業務発注だけでなく、企業・団体と連携したイベント制作を行い、様々な形で地域企業を活かすことができた。 福祉施策への配慮も、複数の事業において積極的な取組を行うことができた。</p>
--	--

3 利用者の満足度		職員の接遇については前年度に引き続き高い評価を得ることができた。施設についてもおむね高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。	A	B	C	D
▽ 利用者アンケートの結果						
【札幌芸術の森】						
実施方法	令和2年4月～令和3年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。 ※令和2年4月14日～5月26日は臨時休園のため、アンケート回収無し。					
結果概要	回答5,075件 (施設利用者アンケート933件、事業アンケート4,142件) 施設に対する総合的な満足度は94.0%(「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、前年度とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度についても、94.9%(「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、前年度より高い評価を得られた。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。					
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応した。 意見・要望については別添のとおり					
【本郷新記念札幌彫刻美術館】						
実施方法	無記名の記入方式(通年) アンケート用紙を本館ロビーと記念館2階に配置 ※令和2年4月14日～5月24日は臨時休館のため、アンケート回収無し。					
結果概要	回答170件 来館者の施設に対する総合的な満足度は97.1%(「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)、職員の接遇についての満足度は98.2%(「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。					
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】(本館)本館ドアの閉まる音が大きく不快だった。 【対応】11月に札幌市発注による工事をを行い改善した。 【要望】絵画の照明が反射して見えづらい作品がある。 【対応】照明を調整して改善した。 【要望】荷物やコートに入れるロッカーが欲しい。 【対応】事務室で預かる対応の周知を図る。					

4 収支状況				A	B	C	D
▽ 収支 (千円)							
項目	R2年度計画	R2年度決算	差(決算-計画)				
収入	890,250	864,028	▲ 26,222	新型コロナウイルスによる施設の利用制限や事業中止等により、利用料金収入は上期において大幅に減じたものの、利用料金の収入補填の他に、感染状況が一旦落ち着いた秋に開催した美術展好調に伴う駐車料金収入の一定程度の確保、コロナ禍における感染症対策やウイズコロナ時代における実証実験を兼ねた新規事業への公的補助金や民間助成金などをいくつか獲得し、施設として閑散期となる秋以降に当初計画にはない新規事業をいくつも実施し、来園者の積極的獲得に努めることができた。			
指定管理業務収入	840,066	818,768	▲ 21,298				
指定管理費	670,246	699,754	29,508				
利用料金	54,556	41,585	▲ 12,971				
その他	115,264	77,429	▲ 37,835				
自主事業収入	50,184	45,260	▲ 4,924				
支出	910,124	860,329	▲ 49,795				
指定管理業務支出	832,607	796,343	▲ 36,264				
自主事業支出	77,517	63,986	▲ 13,531				
収入-支出	▲ 19,874	3,699	23,573				
利益還元			0				
法人税等			0				
純利益	-19,874	3,699	23,573				
▽ 説明							
<p>▼ 利用料金収入とは、野外美術館観覧料、工房利用料、駐車場利用料等である。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響による施設の休館や貸館事業の中止により、利用料金全体で計画比12,971千円の減収となった。</p> <p>▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等である。展覧会の好調により、余剰金収入を獲得できた事業もあるが、全体では、新型コロナウイルスの影響によるパレエセミナー等講習会の中止や主催事業の縮小により、計画比▲37,835千円の減収となっている。</p> <p>▼ 指定管理業務支出は、事業の縮小による諸謝金や委託費、光熱水費等の減少が主な要因となり、計画比36,264千円の減となった。</p> <p>▼ 結果として、収入の減に比べて支出の減が大きくなったため、収支差引額は計画比23,573千円の増加となった。</p>							
<p><確認項目> ※評価項目ではありません。</p>							
<p>▽ 安定経営能力の維持</p> <p>当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。</p>				適	不適		
<p>▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応</p> <p>▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。</p> <p>▼ 情報公開請求については、札幌芸術の森において、13件あった。</p> <p>▼ オンブズマンについては、札幌芸術の森において生じたが、適切に対応した。</p> <p>▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。</p>				適	不適		

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【札幌芸術の森】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、4月14日から5月25日までの臨時休園をはじめ、予定されていたイベントや事業の中止が相次いだ。緊急事態宣言解除後、ソーシャルディスタンスや換気、検温、消毒など感染拡大の防止を目的とするガイドラインを策定し、来場者や職員・関係者に対する感染予防を行いながら事業を開催したほか、ライブや講習会事業の動画配信、さらには自宅で創作体験できるキットの販売事業など、ウィズコロナ時代における工夫を新たに行いながら、事業を推進することができた。</p> <p>施設の維持管理については、委託業者と連携を図りながら、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。</p>	<p>【札幌芸術の森】</p> <p>来年度についても第4期指定管理の運営に係る基本方針に基づき、事業を実施する。</p> <p>札幌芸術の森のメインとなる施設の一つ、野外美術館については、令和2年度に引き続き魅力を再認識してもらう取り組みを進めると同時に施設の環境整備も行っていく計画である。</p> <p>美術、工芸、音楽、舞台芸術、各分野については札幌市の文化芸術を担う施設として、芸術を担う人材育成や市民の活動、交流の場として、高い水準の芸術鑑賞の機会の提供、多岐に渡る講習会を実施する。これらの事業は、芸術の森にとどまることなく、市内中心部の施設を活用するなどし、より気軽に市民が事業へ参加できるようアウトリーチ型のイベントも多く企画している。当財団が管理運営している他施設のほか、市内団体との連携を図ることで、実施する事業の可能性を上げていき、さらに園内施設で実施する事業を充実させるためにも、民間、各種団体との連携を図り、利用促進に努める計画である。</p> <p>また、来年度においても新型コロナウイルス感染症への対策について、業種別ガイドラインを順守し、安全・安心な施設の運営や事業の実施を行う。</p>
<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>本館の入館者数が、指定管理受託後初めて1万人を超えた前年度に引き続き、コロナ禍にありながらも本年度も1万人を超えた。また、記念館においても無料化月間の効果も手伝い近年にない入館者を数え、本郷新や当館の魅力を多くの人に知ってもらうことができた。</p> <p>展覧会事業では、現代の具象彫刻界を牽引する「舟越桂展」を開催。道内の美術館のコレクションを活用するとともに、印象的な自筆文章を抽出して提示することで、舟越固有の静謐で情趣的な造形世界の真髄に迫るものとなった。また、本郷新没後40年記念として、当館が所蔵する1,771点の作品をできるだけ多く紹介していくシリーズ「本郷新・全部展」を開催し、本郷新の表現の幅広さと、当館の充実したコレクションを広く知ってもらう機会を創出した。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、休館や会期や事業内容の変更を余儀なくされたが、そのなかにおいても、さまざまな工夫をしながら美術館としての使命を果たした。具体的には、「わくわく★アートスクール」において、近隣小学校で美術家が教育プログラムを行う予定を変更し、一般からネットで写真を募集し、それらをコラージュした作品を展示する方法に変更したことや、中止となった札幌芸術祭の会期に、コロナ禍でのアート活動に対する支援やアートマーケットの活性化を目的に、「札幌ミュージアム・アート・フェア2020-21」を実施した。その他の事業でも、感染防止対策を徹底しながら、ハロー！ミュージアムのほか、美術館めぐり、造形教室などの人気事業は継続して内容の充実にも努め、サンクスデーでは幅広い層に美術館をPRすることができた。</p> <p>施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。</p>	<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を活かした魅力ある事業展開に引き続き努め、入館者の増加を図っていく。事業の企画立案に当たっては、彫刻芸術の真髄を伝えるものから、広く立体芸術の魅力を伝えるものまで、様々な展開する。作家本人のアトリエであった記念館では、建物もつ雰囲気を活かし、本郷新の芸術と業績を豊富な作品と資料により紹介するとともに、館が所蔵する彫刻芸術についての資料を広く一般に公開し、市民の文化芸術活動の支援を推進する。</p> <p>普及事業では、ハロー！ミュージアムや長年携わってきた近隣小学校への協力など、引き続き教育の場としての美術館の特色を打ち出していく。</p> <p>また、近隣はもとより札幌市全域の地域とのつながりを引き続き重視し、地域に親しまれる美術館を目指すとともに、財団他施設や民間企業との連携・協力関係を築き、事業展開の幅を広げていく。</p> <p>施設の維持管理については、札幌市と協議しながら、安全性の向上と快適な環境づくりに努める。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>両施設とも、一般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。</p> <p>芸術の森では、多彩な展覧会や野外美術館を活用したイベントを実施したほか、積極的にオンライン配信等を活用し、事業実施に努めた点は高く評価できる。</p> <p>彫刻美術館では、知名度の高い「舟越桂展」や第3回本郷新記念札幌彫刻賞入選作品展の開催により、入館者数が前年度を上回るなど、多くの市民に文化芸術に親しむ機会を提供したことについて高く評価できる。</p> <p>芸術の森の収支状況については、新型コロナウイルスによる施設休館等の影響を受け、利用料金収入が前年度に比べ減収となったものの、民間助成金の獲得等により、全体として黒字決算となっている。安定的な施設運営を行っていくために、今後も緻密な事業計画の作成や経費削減等に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>芸術の森、彫刻美術館ともに、新型コロナウイルスの影響を受けて、中止や企画変更となった事業はあったものの、工夫を凝らした事業を数多く実施した結果、芸術の森については計画を下回ったものの総入園者数が40万人を超えており、彫刻美術館については来館者数が1万人を超え、計画を上回っている。今後も、魅力ある多彩な事業の実施に努めていただきたい。</p> <p>経営面においては、経費削減や自主事業収入の向上に引き続き努めていただきたい。</p> <p>利用者の安全確保については、定期的な点検及び維持管理、委託業務等の適切な監督・履行確認等の徹底を図ること。</p> <p>また、経理関係事務の再点検、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告については、引き続き取り組むこと</p>